

令和6年度業務報告書（抄）

（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

一般社団法人 ジェイエイバンク支援協会

I 事業報告

令和6年度における我が国は、猛暑や台風、記録的豪雨等多くの自然災害に見舞われた。また、衆院選により少数与党となった自公政権と野党との攻防が顕著になった年でもあった。

国際情勢においては、ロシアのウクライナ軍事侵攻や中東地域の武力衝突の長期化が原油をはじめとするエネルギー分野に与える影響は計り知れず、世界を混乱させている。また、米国第一主義を掲げるトランプ政権は、国際協調路線を逸脱し、特に貿易面において世界各国に錯綜と不安を与えていた。

農業分野においては、原材料・生産資材が高騰する中、猛暑や降雨不足、インバウンド要因も加わり農産物価格が急上昇、とりわけ米不足は令和の米騒動とも言われ備蓄米の放出まで行われる事態となり、エンゲル係数は40年ぶりの高水準となるまで上昇することとなった。

金融情勢においては、日銀の17年ぶりとなる政策金利の引上げが行われ、各金融機関は顧客争奪戦激化を加速させており、経済や物価情勢の不確実性が高い中での厳しい運営を強いられている。

このように世界的にも厳しい経済環境・情勢の中、JAグループとしても環境の変化に応じた適切な施策が求められている。

当協会としても、農林中央金庫をはじめとする関係機関等との密接な連携の下、JAバンク支援基金の適正な運営管理を行ってきた。

1. 支援業務

当協会は、再編強化法に基づく指定支援法人としてJAバンク会員及びJAバンク賛助会員から納付された負担金によりJAバンク支援基金を管理・造成し、これを財源にJAバンク会員の経営改善、信用事業の再編・強化並びに組織統合に必要な支援を行う役割を担っている。

支援にあたっては、再編強化法及びJAバンク基本方針に基づく農林中央金庫からの支援要請を受け、定款・業務方法書等に基づき所定の手続きを経て実施する。

(1) 負担金の徴収

平成21年2月に開催されたJAバンク代表者全国会議の決議により、JAバンク支援基金における支援準備金残高が目標水準以上を確保してい

る間は負担金の徴収を見送ることとされている。この決議に基づき、例年同様通常総会を開催し、令和6年3月11日に決議があつたものとみなされ、令和6年度の基金負担料率等を0%とする旨を決定した。

(2) 支援の実行

当年度は、北海道信用農業協同組合連合会による道内のしづない農業協同組合及びひだか東農業協同組合に対する貸出金にかかる利子補給について、同信連に対し総額2.8百万円を継続して実施した。

また、事業再編選択JAに対する支援として4道県8JAに対し、総額136百万円（11案件）の金銭贈与を行った。

(3) 支援基金の造成状況

令和6年度の支援基金造成状況は、次のとおりである。

(単位：百万円)

	金額
令和5年度末基金残高（A）	165,165
収入（B）	369
負担金収入	0
運用収入等	302
金銭贈与引当金戻入（注1）	66
支出（C）	139
支援実行額	2
うち金銭贈与（注2）	0
うち利子補給	2
その他支出（経費等）	137
金銭贈与引当金（D）	0
令和6年度末基金残高（E）=（A）+（B）-（C）-（D）	165,395
支援実行中の資本注入額（F）	0
支援準備金残高（E）-（F）	165,395

(注1) 事業再編選択JAに対する引当金について、契約終了に伴い戻入処理したもの。

(注2) 金銭贈与による支援額は收支上136百万円であるが、既に費用計上済の金銭贈与引当金から全額充当している。

※ 単位未満切捨てのため、一部数値に不突合がある。